

911.3

7

梅洞雪涼谷主人輯

今人孝白志風流

一具蒼古人再校



山川壯麗動之氣。陶甄

人物。雖曰性情歸一。至

此乎。叢。西。不。能。去。異。

西人謂。東人之詞曰。東樣。

序

詩人謂西人之河曰西  
樣亦不自知其乃在樣  
也此集卷第幾圖法注  
之句。後這跋者一不可

提。此是。歸。虞。之。所。致。  
定。此。觀。屏。耳。之。化。矣。

庚子嘉平月

五山桐絲述  
[Seal]

山無之西ノ峰ノ下ニ有テ其ノ名曰ク...

山無之西ノ峰ノ下ニ有テ其ノ名曰ク...

山無之西ノ峰ノ下ニ有テ其ノ名曰ク...

山無之西ノ峰ノ下ニ有テ其ノ名曰ク...

山無之西ノ峰ノ下ニ有テ其ノ名曰ク...

山無之西ノ峰ノ下ニ有テ其ノ名曰ク...

山無之西ノ峰ノ下ニ有テ其ノ名曰ク...

山無之西ノ峰ノ下ニ有テ其ノ名曰ク...

山無之西ノ峰ノ下ニ有テ其ノ名曰ク...

山無之西ノ峰ノ下ニ有テ其ノ名曰ク...

山無之西ノ峰ノ下ニ有テ其ノ名曰ク...

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, showing significant damage and staining. The text is written on aged, yellowed paper and is mostly illegible due to the extent of the damage.

Handwritten text in cursive script, continuing from the top page. The text is written on aged, yellowed paper and is mostly illegible due to the extent of the damage.

おきかひのたのめをいふまはれをききしに  
秋は水かたきらふのたのめはゆきありて  
かたきらふのたのめをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに

あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに  
あはれをいふまはれをききしに

十一月十日

一わら屋牡丹愚春

人名錄

武藏

一蕙 啓山 宇橋 大梅 奎議 大鈞 双湖 茶靜  
 素恣 了是 卓郎 成美 道彦 巢兆 可磨 梅令  
 碩布 千輅 鶯笠 松巢 玉光 菊塙 鶯雨 名膽  
 林曹 碓嶺 久藏 寥松 山峰 八重女 護物 國村  
 古陸 應安 洪水 旦々 汶柳 雪雄 完來 謝堂  
 五繩 石鷄 湖山 馬佛 守光 真國 梅壽 燕陵  
 春路 碩齋 台々 禾木 詠歸 竹為 魚連 栗庵  
 杜英 意橘 調意 雨柳 女輝 山十 雨抱 儀

2000  
 2001  
 2002  
 2003  
 2004  
 2005  
 2006  
 2007  
 2008  
 2009  
 2010  
 2011  
 2012  
 2013  
 2014  
 2015  
 2016  
 2017  
 2018  
 2019  
 2020  
 2021  
 2022  
 2023  
 2024  
 2025  
 2026  
 2027  
 2028  
 2029  
 2030  
 2031  
 2032  
 2033  
 2034  
 2035  
 2036  
 2037  
 2038  
 2039  
 2040  
 2041  
 2042  
 2043  
 2044  
 2045  
 2046  
 2047  
 2048  
 2049  
 2050  
 2051  
 2052  
 2053  
 2054  
 2055  
 2056  
 2057  
 2058  
 2059  
 2060  
 2061  
 2062  
 2063  
 2064  
 2065  
 2066  
 2067  
 2068  
 2069  
 2070  
 2071  
 2072  
 2073  
 2074  
 2075  
 2076  
 2077  
 2078  
 2079  
 2080  
 2081  
 2082  
 2083  
 2084  
 2085  
 2086  
 2087  
 2088  
 2089  
 2090  
 2091  
 2092  
 2093  
 2094  
 2095  
 2096  
 2097  
 2098  
 2099  
 2100

史千夏海雨龍夏桂木葉壽翁任只素撲  
五老蒿居妙子女文晁溪齋起雪光西庵  
車兩双史萊石伯夫女魚山雨籟石虎  
林呂秋兔荷乙子豪山女周妻女贛山  
斗筵鶯婆麻交女太嶺女鳩女諫圃白圭濱婆  
可布室水對山秋耳仙骨阿惠相我鶴布  
文貫五渡心非遊女花照燕市米范五陵巫布女  
季道川蛾之女青牛雪彥雲布几丁可景  
三中貞秀鹿車麥川南子女月素人嵐峰  
杏蔭五月翫壽觀濤丁知女千賀女杉香

下總

雨塘斗圓江月桐雨我石石鯢四明桂丸  
李峰潤里茶彥魚湖東麒鶴老秋雄夜照  
古彥兔鄉蓬呂竹霽蒼峨青岱廣陵近嶺  
梅史恒丸志喬素迪汶里少計市石素月  
名村湖月李儗李明桑且至長

上總

白老里丸三化弄化

安房

也艸柞枝斗白平雄海翁其又悅二素共  
其杖



相模

葛三安成雉啄左明薰岱淵光三松澧水  
玉珂素柏

甲斐

嵐外可都里重行浸、曾人一作蟹守草烏  
草丸

信濃

一茶長莊素壁斗文琴齋素鏡白堂叢  
如陵薜齡希言若人葛古一挑雲帶挑隱  
芳汀式印兔國文海正阿八月籍光米丸  
如水

上野

壺半鷄周鹿太洋烟乙人浦人幽子寥山  
六莪山呂酣古劍垂月鴻

越後

芝蘭鍊齋蓬松久舍集古月敏李珉靜寬  
荇村雪齋東峨石海天涯寬路藍洲椿州  
之德五岨守雄龜石杉亭可英悟明左有流  
三交了、迦孫石卵春翠石柴素魂石腸  
宇弘士粟越塵蝸堂路成北洋桐堂未潤  
田都喜歸焉春雄其流五雲春坂管詩藝村  
霞江文惠乙良梅仙耕齋弄山玉聲疊山

人名

太橋氏城可貞曉花玄子乙貞玄心丘  
古翠開揚袁休空澤咫雲五牛御風文河  
二了豐居文桑五明吹霞石砧天山淋山  
仙風一海貫山五井松徑稻舟豹左乙蝶  
吟步以文龜子渭虹左洲雄島稻州涼故  
渭南巴陵志蘭麗令禹丈杜園峯梅蕙谷  
如仙梅年字高璣山不持可重吳秋知台  
乙塢司曉渭貞四松也如先一四夏溪  
呂竹珍洞漁嵐才比五峯英李楓二棠仙  
山水稻丸川長菟外之篠婁柳李開野松

人各  
桃史卜才旭甫

野人文冲奈岷沙左来春兮攀桂幽嘯貞風  
董水昇魚萬里松汀梨浦文流里秀  
直上鷺齋吳泮甘雨雲潭月北東郊年眉  
素明卓齋為章按魚巴水楚鞋龜寬如柳  
歡舟旬扣可登居靜松陵里遊方夜駕虹  
補石且来令齋棠郊文哉可庸友麻應泉  
尺苔曉古鼓吹松畝二川卓二

佐渡

良談菊古箕山周鼎北岳負米上風後川  
楚弓淇竹芽齋深澤和逸魯山

出羽

太橋氏城可貞曉花玄子乙負玄心丘  
古翠開梯袁休窅澤咫雲五牛御風文河  
二了豐居文桑五明吹霞石砧天山淋山  
仙風一海貫山五井松徑稻舟豹左乙蝶  
吟步以文龜了渭虹左洲雄曼稻州凉菰  
渭南巴陵志蘭麗令禹丈杜園峯梅蕙谷  
如仙梅年宇高墩山不持可重吳秋知台  
乙瑪司曉渭貞四松如先一四夏溪  
呂竹珍洞漁巖才比五峯英李楓二棠仙  
山水稻丸川長菟外存婁柳李開野松  
桃史卜才旭甫

陸奧

乙二沾橘多代女龜丸女き女長蘆辰子鵝溪  
萍沙南山相涼李冠葛路一之勿言柳明  
左琴拱城葵窓素竜冥々芳齋芥彦黙巢  
建齋雨考文骨素考三平子竜露秀南歌  
乙調玉扇梅溪東峨琢亭卓堂東瑠鐵船  
布山聿終凡二十仙馬遊東里日人檜六  
蘆川松朝吐月真澄雄淵谷雄十竹柳村  
千里與人桂裡尉公人堂如九玉鉞蕉窓  
甚人十興馬瓢湖南一毛露々北溟蘭叟  
東曉二秀麥園夕山草瑠雪人芳林白鳩

可月如靄俳佛馬年曉山東明可耕起得  
南兮春嶽楚臼萍母其道素月竹馬文翠  
白鵬李大世竹蒲節江三千秋傑女蘭中  
尚中乙彦汀左雨村松圃鴈四菖水枕流  
玉之一遊紫蘭一湯子介望湖鳳車蘆帆  
九畦旧邨蘭溪露鳥麥紗松蘿葛父斗南  
百非乙村甘之英之布席橋太北呂三瓶  
欣雅詩丸半溪有水白雅汎兮士由米谷  
樗遊如雄來東完周羅堂半偈子容婦女  
一釣揚鶴竹兄一路如桂椿齋如髮雨芳  
大貴素鄉淇水平角阿堂紫明空記

あやま 巖居 不流かつ山厚五陵秋羅袖玉  
阿喜 淵水鳳毛 湖秋一竹百舉丘住蘭兮  
樵翁 李席心阿 甫十菊人章流南壺月哉  
甫山 錦之三枝 貨泉楚雀月蘆  
下野  
五塊 陶里曉鳥 原水梅二白松梅溪草雨  
星谷 丸二兔川皎々百擗真誠蕉水凱山  
芳溪 巴螢志靜百儂嘯山其翼晚葭昂涯  
兔水 曉雨魚々一夢道雄  
菅陸  
民枝呼友石翁乙人卓香吾介青藜湖中

谷從 安隣里芳方居聽雨東上苦山杉外  
小簣 野巢一徑由之口松安釣魚千宵左裡  
得雨 靜山湖平素涼柳美甫月藏六戴坐  
昭眉 太珥李大温文有佐雨夕篤夫陸波  
枯丸 思文范父杜年真彦左乙柳至只畚  
山笑 有美素有蘭月万丸藤和奇梁洞月  
長哥 芳之知聲并知素白其春有輔蚤浦  
画柳 里梁東林器友小嶺笠山太青吳竹  
嵐兆 松江麥門素英梅吾梅園三有雨及  
守山 恭雄鬼平一止與秋風也半圃左文  
木 茂水女其声和琴滄水夏姿啄秋規外

路交

人名錄終

俳諧叢句吾都麻布理上目錄

春之上

正月	初閏正月	睦月	元日
元朝	三左春	年五	初空
神雞	初鳥	初霞	明春
今朝春	御代春	三花春	君春
國春	中春	初春	早春
年頭	年始	御慶	年本
松初	東風	惠方	門松
布	門飾	齒朶	櫻葉

饒豪 屠蘇 齒固 敬子

蓬萊 嚴原 初曆 書初

福引 水引 泐降 二日五丁

三ヶ日 水死 福角 福茶

子日 小松引 人日 若菜六丁

十種 莽雜 七種過七丁 子日過

松内 松過 星佛 懸想文

萬歲 儀引今 若戎 傀儡師

羽子板 遣羽子 胡鬼子九丁 寶引

粥林 縣召 左義大 師忌

福壽艸 露處 芹 薺

菅草時 約子草時

若草 草若菜 芦芽

木芽十一 茶木芽 桐芽 梅

月前梅 夜梅 折梅十五 磯梅

浦梅 海辺梅 川辺梅 山谷梅

野梅 里梅 宿梅 散梅

紅梅六 松若綠 松花 柳十七

芽柳九 柳九 抹 鶯

百千鳥生三 白魚 蜆 蛤

蚶 養父入 海苔 青海苔廿三

若布 餘寒 春寒 牙返

霞

朝霞九四

夕霞

山霞

霞

野霞

江霞

濱霞

島霞

草霞廿五

月霞

春風

春霜廿六

殘雪

春雪

淡雪

雪解

雪汁廿七

雪霰

凍解

冰消

暖

麗

長剛

佐保廿八

山味

春之口

二月廿九

衣更着

三月初

初午

涅槃會三十

西行忌

彼岸

臘月三十一

脆夜

春月

春夜三十三

春宵

鳥

鳥巢

鳥

雉子

燕三十四

鸞三十五

狗鳥

松毛鳥

春雁

歸雁

雲雀

雀子三十六

春水雞

春鳥

蝶

蜂三十七

蛙

蛙

蛙子三十八

田螺

飯蛸三十九

貓恋

春鹿

鹿落角

陽炎

通四十

紉四十一

出代

燒野

山燒四十二

畑打

田打

獨代

程時

麻時

薺時

獨

歲

土筆

杉菜四十三



虎杖

春草

蒲公英

薊

菊根分

菜花

山葵

慈姑

接木

菊

番椒植

枸杞

初花

彼岸櫻

糸櫻

待花

春

春

春

春

春之下

弥生

己巳

曲水

雛祭

草餅

雞合

汐干

安良祭

梅若

念佛

永日

遲日

春日

春空

春夕

柳塞

茶

蚕

山櫻

柳

朝櫻

夕櫻

夜櫻

月前櫻

散櫻

八重櫻

羅櫻

花

花盛

花雲

花曇

花風

花雨

花雪

花雪吹

花見

夕花

夜花

月前花

花守

散花

殘花

桃

梨花

海棠

辛夷

躑躅

山吹

木瓜花

木蓮花

李花

連翹

櫻花

櫻麻

蠶繭

董

芽花

草麥

青麥

母子艸

藤

麥鷓五十八

鳥歸

雲入鳥

呼子鳥

引鴨

櫻鯛

若鮎六十

別霜

春露五十九

春雨

春人六十

春山

春海

春水六十一

春川

夏近

惜春

春別

春過

春暮

行春六十二

三月尽

春雜

夏之上

四月

初丁

郊月

初夏

來夏

更衣

綿技二丁

裕

夏衣三丁

浴衣

單物

青簾

筑磨祭

灌佛

佛生會

花濟堂四丁

夏籠

夏花

夏書

夏念佛

青五丁

蟹醬

鯨

松魚

麥秋五丁

穗麥

麥刈

青嵐

牡丹

藥六丁

燕子花

花七丁

鸞尾花

罌粟

蚕豆花八丁

茨花

夕花

夕花腐

若楓

若葉九丁

青葉十丁

葉櫻

木草茂

葱草茂

木下閣

散松葉

桐花土

柚花

金柑花

枳殼花

柿花

花茄子

初茄子

茄子

筍

落

蓼

郭公士 鶯入音十三 老鶯 鴈 鳩

鵲 古 通鴨 夏鴨 枝蛙 五 暮 剖葺鳥

葺公剖 蒼鷺 蚰牛 蚰蜒 暮

子子 蚰牛 蚰蜒

夏之中

五月 十六 皋月 瑞竹 菖蒲

菖蒲芬 菖蒲賣 軒菖蒲 菖蒲湯

印地打 粽 穢 藥日

加茂鏡鳥 竹解日 真菰川 蓮浮葉

蓮 藻花十六 萍 苔花

百合花十九 紅藍花 夏菊 紫陽花

瞿麥 野蕪子 常夏 石竹

恟釣草 酸漿艸 葺葺葉 藜

苜草 覆盆子 青梅 南天花

栗花 推花 臯月躑躅 合歡花

花橘 擗花 夏木立 若竹

竹皮散 瓜花 胡瓜 栗蒔

早苗 田植 田植 青田

田草取 早乙女 蟬 蚊

蚊柱 蚊遣火 蚊遣草 蛭

蠅 蝙蝠 水雞巢 鳩浮巢

水雞 鷓鴣 鴉 鴉 鴉 翡翠

羽拔鳥 鴨子 鹿子 照射

火串 蛇脫衣 鱖 五月雲

五月雨 梅雨 五月閣 船風

五月晴 虎夕雨 半夏生 短夜

明安夜 夏夜 夏月 蚊帳

紙帳 帷子 夏羽織 薄物

夏之下

六月 水燕月 水室守 水賣

夏水 水餅 一夜酒 祇園會

富士箱 土用 虫干 暑

炎天 日盛 夕立 夏露

雨乞 雲峯 扇 團扇

汗乞 汗拭 日傘 簞

竹婦人 抱籠 涼 納涼

風薰 打水 清水 晒井

葛水 冷麥 水粉 水飯

冷飯 香薷散 百日紅 葉柳

夏柳 土用芽 凌宵花 河骨

蓴菜 夏草 青芒 葎花

麻刈 葛花 鼓子花

夕顔四十三 新麥 瓜  
 蚤 蛭 蚶 沖鱈 火取虫  
 鮎四十三 川狩 名越 祭 毛虫  
 夏神樂 沭枝 夏瘦 形代  
 茅輪 昼寐 夏海 秋待 晚夏  
 夏野四十四 夏海 秋待 晚夏  
 夏雜 秋待 晚夏  
 俳諧發句吾都麻布理上目錄終

俳諧發句吾都麻布理春上

洞海舎涼谷編

一具菴一具校

正月

正月也まをれくをれハ神の月 陸奥 乙二

正月の傳きまをるは江戶 江戶 一 橋

正月や店百姓の夢は移 相模 碓山

正月の夕燈くまき 秋家 相模 碓山

正月や萩のまをるまをる 相模 碓山

正月もまをるまをる 出羽 大橋

正月やまをるまをる 越後 民城

正月のまをるまをる 越後 民城

春



初室

初室中流よりうきくふる鳥のり

下総 雨塘 葛三

初雞

初雞やうきくふる鳥のり

越後 鍊翁

初鳥

初鳥やうきくふる鳥のり

江戸 蓬拙

初霞

初霞やうきくふる鳥のり

陸奥 素志

初霞

初霞やうきくふる鳥のり

辰子

初霞

初霞やうきくふる鳥のり

鶺鴒

初霞

初霞やうきくふる鳥のり

素葉

初霞

初霞やうきくふる鳥のり

出羽 乙人

初霞

初霞やうきくふる鳥のり

江戸 了是

初霞

初霞やうきくふる鳥のり

了是

徳代春

徳代の春 花は白く 鶺鴒の白く

一 蕙

花春

花春の春 鶺鴒の白く

一 蕙

君の春

君の春の春 鶺鴒の白く

一 蕙

國の春

國の春の春 鶺鴒の白く

一 蕙

宵の春

宵の春の春 鶺鴒の白く

一 蕙

初春

初春の春 鶺鴒の白く

一 蕙

早春

早春の春 鶺鴒の白く

一 蕙

年頭

年頭の春 鶺鴒の白く

一 蕙

年頭

年頭の春 鶺鴒の白く

一 蕙

年頭

年頭の春 鶺鴒の白く

一 蕙

年頭

年頭の春 鶺鴒の白く

一 蕙

美のぬくもりにあふれ 新緑 雨城

市慶

はるのふんをよきとす 市慶 一 蕙

辛玉

入道のふんをよきとす 辛玉 陸奥 洋沙

初夢

をばさるやまのり 初夢 全 葛三

東風

東風の吹や猫も抄さるる 東風 一 茶

惠方

夕さちや雪をさるり 惠方 八 南山

惠方

めてこももつらつ 惠方 乙二 葛三

惠方

美海をよきとす 惠方 出羽 大梅

門松

門松のこまをよきとす 門松 江戸 道彦

門飾

門のこまをよきとす 門飾 越後 天舎

松飾

松のこまをよきとす 松飾 学陸 青蓼

門飾

門のこまをよきとす 門飾 江戸 一 具

門飾

門のこまをよきとす 門飾 学陸 五介

門飾

門のこまをよきとす 門飾 越後 天舎

門飾

門のこまをよきとす 門飾 学陸 青蓼

門飾

門のこまをよきとす 門飾 江戸 一 具

門飾

門のこまをよきとす 門飾 学陸 青蓼

門飾

門のこまをよきとす 門飾 江戸 一 具

門飾

門のこまをよきとす 門飾 学陸 青蓼

門飾

門のこまをよきとす 門飾 江戸 一 具

門飾

門のこまをよきとす 門飾 学陸 青蓼

門飾

門のこまをよきとす 門飾 江戸 一 具



蓬萊

小原

初曆

書初

福引

福引

序降

蓬萊を招きし由りて

ほろりし世のけしき

さてその世のい

その時日を

書初や大を

かよそや

たこや

のりもや

のりもや

世よりや

世よりや

江戸

陸奥

越後

信

江戸

武蔵

江戸

武蔵

江戸

江戸

可磨

李冠

集古

占

相蓉

粟兆

葛三

碩布

梅令

七二

二日

三ヶ日

水税

福浦

福栄

子日

二日

三日

水税

福浦

福栄

子日

水税

福浦

福栄

子日

水税

常陸

湖中

一蕙

涼谷

岩後

去子

碩布

葛三

了是

同敏

水税

人のりや... 宇橋  
 人のりや... 子輅  
 人のりや... 一具  
 人のりや... 甲斐  
 人のりや... 風外  
 人のりや... 下総  
 人のりや... 谷後  
 人のりや... 涼谷  
 人のりや... 宇橋  
 人のりや... 香三  
 人のりや... 飛丸女

小松引

人日

善業

人のりや... 子輅  
 人のりや... 涼谷  
 人のりや... 通彦  
 人のりや... 香三  
 人のりや... 玉光  
 人のりや... 巢北  
 人のりや... 出羽  
 人のりや... 乙負  
 人のりや... 越後  
 人のりや... 新寛  
 人のりや... 荏村  
 人のりや... 乙二  
 人のりや... 佐真  
 人のりや... 高路



和名... 文... 月... 星...

陸奥

掬明

星佛

和名... 月... 星...

山

道彦

懸想文

和名... 文... 月...

百葉

和名... 文... 月...

山

志

百葉

和名... 文... 月...

古

琴

百葉

和名... 文... 月...

陸奥

扶城

百葉

和名... 文... 月...

陸奥

葵窓

百葉

和名... 文... 月...

大

花

百葉

和名... 文... 月...

一

具

百葉

和名... 文... 月...

里

芳

百葉

和名... 文... 月...

越

後

百葉

和名... 文... 月...

東

鏡

百葉

和名... 文... 月...

若

鏡

百葉のつらみののちるゝの假名

弱くふり年暮るや根岩成

まふあまなつて何れ花也

籠く心ふりて終るはそい子

老るゝあめそふとんきつ假假師

えうゝてさひくありぬ假假師

まふ信とやりのや常るまふ山家

羽子板の篇のこゆや小世假

かりまのまふ信とてまふり代

まひくぬまのぬまあぬぬ

まひつゝや望日表の城の松

京谷

也州

素就

冥々

谷徒

乙二

為笠

琴秋

護物

石海

陸奥

信濃

江戸

越後

國村

護物

素葉

全

道彦

乙二

昔三

多と女

一具

乙二

芳歌

羽子板

遣羽子

假假師

若戎

猿曳

胡鬼子

雲引

粥杖

縣召

左義長

後忌

福寿丹

春



若草

若草のやぶらぎのやぶらぎのやぶらぎ

素花

若草のやぶらぎのやぶらぎのやぶらぎ

練衣

若草のやぶらぎのやぶらぎのやぶらぎ

乙二

若草のやぶらぎのやぶらぎのやぶらぎ

陸奥

三平

若草のやぶらぎのやぶらぎのやぶらぎ

冥々

若草のやぶらぎのやぶらぎのやぶらぎ

素葉

若草のやぶらぎのやぶらぎのやぶらぎ

芦

表丁

若草のやぶらぎのやぶらぎのやぶらぎ

也州

若草のやぶらぎのやぶらぎのやぶらぎ

涼谷

若草のやぶらぎのやぶらぎのやぶらぎ

棠花

若草のやぶらぎのやぶらぎのやぶらぎ

乙二

草名蚕芽

芦芽

木芽

細代家のものきりやまを木芽多

葛三

木芽の芽や炭火のうらまのり

一具

木芽の芽や炭火のうらまのり

子就

木芽の芽や炭火のうらまのり

古翠

木芽の芽や炭火のうらまのり

表休

木芽の芽や炭火のうらまのり

一司

木芽の芽や炭火のうらまのり

五介

木芽の芽や炭火のうらまのり

果澤

木芽の芽や炭火のうらまのり

道考

木芽の芽や炭火のうらまのり

成美

木芽の芽や炭火のうらまのり

成美

桐芽

桑木芽

梅





藪尻子、そのはくやう女の姿  
 梅のや、数多き人、世も小蔵人  
 足跡、一と梅小日の、さす二月の  
 健那、寂りつゝ先乃、ふささ  
 浅百、う辻能、そりう女の姿  
 猿、柳、梅の、うきを、月夜、  
 燈、一と、さる、や梅の、一糸  
 梅、一木、あふ、うくれぬ、白ひ  
 嚏、みこ、うら、うめの、さうり  
 曉、や、霞の、さうり、此梅を  
 大、中、う、梅の、咲、う、相、外

越後 粟兆  
陸奥 椿州  
陸奥 碓山  
陸奥 全  
陸奥 東峨  
陸奥 琢亭  
江戸 蕉雨  
江戸 あき女  
下総 舟静  
下総 一具  
下総 我石

梅の、木、や、さ、あ、の、さ、れ、却、の、咲  
 梅、咲、や、水、を、打、く、子、の、花、人  
 袖、を、の、肩、袂、を、や、う、女の、姿  
 旅、人、と、系、え、あ、さ、う、梅、を  
 梅、咲、や、さ、あ、の、さ、れ、ふ、ち、の、店  
 梅、咲、や、さ、あ、の、さ、れ、ふ、ち、の、店  
 梅、咲、や、さ、あ、の、さ、れ、ふ、ち、の、店  
 梅、咲、や、さ、あ、の、さ、れ、ふ、ち、の、店  
 梅、咲、や、さ、あ、の、さ、れ、ふ、ち、の、店  
 梅、咲、や、さ、あ、の、さ、れ、ふ、ち、の、店

江戸 嵐外  
江戸 古陸  
江戸 遊女  
江戸 古節  
上総 全  
上総 方居  
上総 唯嶺  
上総 白老  
江戸 淇水  
江戸 且  
江戸 古翠

岩亦焚、窓をひきき梅香  
 梅咲や庭を法券のあふに  
 俗人や草鞋もとうす梅香  
 蚕畑を梅ふもささり日待  
 鬼妻や井戸のそと梅香  
 なつりや梅咲、はのち待り  
 乾鐘のゆきひきき梅香  
 垣ごりの梅や鏡のま下  
 大空のまひふまう梅香  
 人あやや田井の跡に梅香  
 走ほくもささりぬまや梅香

寥松  
 菊嶋  
 越後之徳  
 五岬  
 乙二  
 全  
 出羽 序風  
 根境 きと女  
 雅啄  
 玉光  
 雨塘

月前梅

春

本町を照く通くやうめの香  
 鶴を娘のちきや朝の梅  
 手違ひのふく海糸梅香  
 一夜のよきまえや梅香  
 梅咲くこのはきまよりの梅香  
 一株を芭蕉もささり梅香  
 海糸とえさる梅のさうり  
 暎や赤乾坤をうめの香  
 窓割も除くさかや梅香  
 鳥のさうり梅もありさうり梅香  
 梅香咲あき園の月を

山峰  
 江戸 汲柳  
 頌都  
 有月  
 陸奥 練衣  
 卓堂  
 涼谷  
 全  
 全  
 東瑤  
 乙真



川辺梅

藤の海へ咲きしるや梅は

一蕙

山谷梅

梅くとしり雪ふ船をりるを

之徳

野梅

多帳ふきく梅あり山の角

大梅

里梅

必梅や葦さく世の多あり

陸奥

鐵船

とわくくく足をも梅あり其梅は

越後

八重女

里の梅やりの釣より寺の清

菅三

宿梅  
散梅

よき里の二月やいと梅出る

蓬袖

山里や梅梅のほく梅はを

鳥笠

見えおさよりまきやこほ(里)の梅

道彦

文字よりや梅より葉梅小本

乙二

梅散るをいふまきつるぬ寺林

陸奥

一具

紅梅

梅散るやせまいともふ雪二挺

武蔵

布山

夕月の影を梅も一まき式

雑物

紅梅の咲きつまりし月夜式

石鶏

紅梅ふいともかきこも梅を石

湖山

紅梅のりも中りく梅を石

粟北

酒ありと門の紅梅咲ふより

玉光

紅梅のりかきこも梅の魚

可英

松若緑  
松花

松花小大根のわくわくをさかり  
 松花や小貝の只此のく日和 出羽 成美  
 松花もよもや様多の雲蒸好 安房 相雨  
 松花の日和れに初不動 安房 松枝  
 松花を幸願ひりは夕日分 常陸 八重女  
 松花をあててゆくは致下僧 常陸 若山  
 松花も今彩を仙ふまゆり 常陸 道彦  
 松花や河の垂るるを後院 常陸 大梅  
 松花を一本てよりまみり 江戸 一具  
 不二川やゆきく足て松の花 江戸 馬佛  
 松の印ふもまもる松の花 江戸 茶静

柳

とと中々鳩のちかき松の花  
 松花とささる 出羽 あと女  
 松花のをりくを柳 出羽 昔三  
 松花けく信のせす松花 出羽 天涯  
 松花のむくまきり 出羽 了  
 松花柳花とてま 出羽 浄風  
 松花の礼うけく 陸奥 素就  
 松花の柳をよその 陸奥 聿終  
 松花の礼うけく 陸奥 凡二  
 松花の礼うけく 陸奥 寫邨  
 松花の礼うけく 陸奥 蕉雨  
 松花の礼うけく 下毛 天塊

吉野の中より足より新調  
 吉野や伊勢路守ふもあし  
 吉野や湖のむくみの人をり  
 吉野中へくまきききりる月  
 御宿の道利藤波守柳式  
 口をききききりる柳式  
 吉野を打つて拂ふ柳式  
 吉野ふあふれくあふ吉野式  
 吉野を八む柳ふあふ柳式  
 あふ玉のつゆのそくあふ柳式  
 守人ゆかききききき柳式

乙二  
 一具  
 全  
 悟明  
 左右流  
 道彦  
 大梅  
 守兜  
 山  
 宇橋  
 座と女

吉野の中より足より新調  
 吉野や伊勢路守ふもあし  
 吉野や湖のむくみの人をり  
 吉野中へくまきききりる月  
 御宿の道利藤波守柳式  
 口をききききりる柳式  
 吉野を打つて拂ふ柳式  
 吉野ふあふれくあふ吉野式  
 吉野を八む柳ふあふ柳式  
 あふ玉のつゆのそくあふ柳式  
 守人ゆかききききき柳式

之徳  
 吉野  
 桐  
 路  
 葉  
 全  
 陸奥  
 一  
 馬  
 成  
 豊  
 湖  
 山

青柳や夏丘ひつ 仮花  
 此く 是のひささの中を 葉の枝式  
 夕霞や柳をとりて 葉の裏  
 青柳や人の心こころ 花の影  
 花枝よりあし柳も 出くはし  
 入は小枝の影なる 花枝式  
 将をさ枝りのかゝる 柳外  
 柳も 花の影なる 花枝式  
 とくくくく柳をさく 葉の裏  
 花の影なる 花枝式  
 一年の影をさく 花枝式

葛三  
 壺半  
 雞周  
 素志  
 全  
 西之女  
 三交  
 素葉  
 東里  
 曰人  
 雜物

臨乞 花の影なる 柳外  
 青柳や自剃く 花の影  
 大根の味 花枝式  
 花の影と柳の影 花枝式  
 花の影と柳の影 花枝式  
 上弦より月さす 門の柳外  
 柳より 花の影なる 花枝式  
 花の影と柳の影 花枝式  
 花の影と柳の影 花枝式  
 花の影と柳の影 花枝式  
 花の影と柳の影 花枝式  
 花の影と柳の影 花枝式

然菜  
 莫國  
 梅寿  
 確嶺  
 全  
 常陸  
 杉外  
 小葉  
 釣魚  
 考  
 涼谷  
 全

茅柳

茅柳をよめぬ人のいふをて

乙二

挿柳

茅柳や大津へりく酒菜の味

大梅

椿

来くやよをれかこくそさし柳

葛三

七の子の秋ふあくとそ柳ささ

山二

切猿鬼門射る矢のむけし

全

あのそりと冬木の井の枯れ

燕陵

うり川せお船の溜を枯れ

春路

あれとささあをささいほくぬ枯れ

道彦

落人の眼さ月さ津さささ

大蟹

とさささ枯れを月のささて

陶里

流くを流をとりまを枯れ

子輪

堂さの流ゆへをさつそさ

谷後

あをの逃うけくおなを枯れ

文葉

お角とをれおなを枯れ

意雨

大帳のあをく流を枯れ

上毛 藤太

昔時ふさうりたを枯れ

大梅

若枯あのをりたを枯れ

杉亭

り枝はたをりくを枯れ

隆興 梅六

かこくささしや枯の速を

芦川

枯れをささし枯れ

素忠

春もつりすたをささ枯れ

菅笠







蜆

蛤

蚶

養父入

海苔

ふゑとくは信州のたまわくはま

陸奥

成美

白鳥や信州のたまわくはま

雄測

五代金も美くはまわくはま

道彦

健の蛤をまわくはまわくはま

全

蜆の蛤をまわくはまわくはま

考堂

ちのりや口の蛤をまわくはま

素忠

おふおふの蛤をまわくはま

素静

おのりや蛤をまわくはま

ふと女

ちのりは蛤をまわくはま

素忠

養父入は蛤のまわくはま

涼谷

海苔は蛤をまわくはま

表休

青海苔

若和布

徐寒

お若くは蛤をまわくはま

乙二

まのりや蛤をまわくはま

江月

ちのりは蛤をまわくはま

常陸

鶯のりや蛤をまわくはま

一径

鶯のりや蛤をまわくはま

右節

双六の目のはまわくはま

出羽

子代金も美くはまわくはま

石砧

山守の蛤をまわくはま

在江戸

まのりや蛤をまわくはま

古製

まのりや蛤をまわくはま

出羽

まのりや蛤をまわくはま

天山

まのりや蛤をまわくはま

越後

春寒

河返

霞

さんくさ 沙黄の足袋や様おろひ  
 ちまき 袴不見えそさんくさ  
 草畑の松植まゝはくすまゝ  
 寺の森人の物くすまゝ  
 ありやまばまゝとまばまゝ  
 ことしかく 苦まがししよく  
 ありやまの目利まゝ  
 本まゝてあせそり 柳陰敷  
 ありやま 柳まゝそまゝ  
 ありとこまゝの 柳まゝ  
 也 柳村 也 柳村

江戸 佐渡

木木 菊古

雄嶺 子轆

馬佛

聖堂

素忠

陸奥 谷雄

十竹

柳村

也 柳村

ちまき 袴不見えそさんくさ  
 草畑の松植まゝはくすまゝ  
 寺の森人の物くすまゝ  
 ありやまばまゝとまばまゝ  
 ことしかく 苦まがししよく  
 ありやまの目利まゝ  
 本まゝてあせそり 柳陰敷  
 ありやま 柳まゝそまゝ  
 ありとこまゝの 柳まゝ  
 也 柳村 也 柳村

陸奥

了是 子里

多と女

天涯

茶粉

珠谷

朝霞 夕霞

山の井北あそびささや一葉  
夕暮三人のりーととり言

蓬 杜

本のはやもすそ海さぬ夕式

青 寥

雲を引きてゆくふかき波夕式

乙 二

山霞

山つらへ井くまむねりぢー

出羽

仙 風

雲を引きてゆくふかき波夕式

大 梅

野霞

一柱のつてうまむや峯の松

陸奥

一 蕙

紅霞

雲を引きてゆくふかき波夕式

与 人

淡霞

ほつろりと入江の雲むすの月

江戸

石 卵

夕霞

打出の淡旅人雲をくぬり

祿 帚

夕霞

雲を引きてゆくふかき波夕式

竹 馬

草霞

一葉のつてうまむや峯の松

石 海

月霞

雲を引きてゆくふかき波夕式

道 彦

春風

雲を引きてゆくふかき波夕式

煮 る

古里の雲を引きてゆくふかき波夕式

陸奥

素 葉

雲を引きてゆくふかき波夕式

梓 裡

雲を引きてゆくふかき波夕式

春 岱

雲を引きてゆくふかき波夕式

右 節

雲を引きてゆくふかき波夕式

下総

全 桂

雲を引きてゆくふかき波夕式

了 丸

雲を引きてゆくふかき波夕式

了 々

雲を引きてゆくふかき波夕式

陸奥

民 枝

春風やふくむるはるの春 乙二 龜石

春の風市の月影はあふそそ 越後 石柴

春風おちるも松丘山の象 素北

春風おちるも松丘山の象 鶯笠

春風や吹送るも松丘山の象 龜石

江の流は松丘山 出羽 海

春風の和暖もささる 咫雲

春風や吹送るも松丘山の象 葛三

春風や吹送るも松丘山の象 越後 石腸

春風や吹送るも松丘山の象 道彦

春風や吹送るも松丘山の象 之徳

春風や吹送るも松丘山の象 石卵

春風や吹送るも松丘山の象 一具

春風や吹送るも松丘山の象 涼谷

春風や吹送るも松丘山の象 三

春風や吹送るも松丘山の象 貫山

春風や吹送るも松丘山の象 寥松

春風や吹送るも松丘山の象 五井

春風や吹送るも松丘山の象 素也

春風や吹送るも松丘山の象 由之

春風や吹送るも松丘山の象 つ孫女

春雪

残雪

春霜

春風

春風

春

松さこの雪やゆふり 融けり

秋あふはうらむらひのこまきまき雪 下毛 暁鳥

海雪ふりのこまきまきの松系成 陸奥 兼都

二つんくまきまきまきまき 江戸 ノ堂

臨川ふらふらのまきなりまきの雪 越後 観斎

雪さこの雪ふまきあり 魚の柳 宇弘

まの雪 鴨乃雪 松根成 涼谷

あつと雪やふふかふとまき 素芯

海雪やふふ方ふ漏く 蘆一

あつと雪やふふ方ふ漏く 蘆一 鶯笠

雪さこの雪乃ゆふり 雪さこの雪 氏枝

雪解

雪

春雪

文雪

春雪

松雪の雪乃ゆふり 雪さこの雪 冬節

雪さけや門と雪乃ゆふり 一糸

海雪さけや門と雪乃ゆふり 古壁

雪解やゆふり 武藏 魚連

雪さけやゆふり 双

雪さけやゆふり 春踏

雪さけやゆふり 涼谷

雪さけやゆふり 怨雲

雪さけやゆふり 乙二

雪さけやゆふり 越後 士栗

雪さけやゆふり 越後 士栗

雪汁

雪平

凍解





俳諧發句吾都麻布理春上終

俳諧發句吾都麻布理春中

洞海舎涼谷編

一具菴一具校

二月

紙帽くきをえりおくの二月式

砦山

二月

湖の足ゆるきをえり乃の二月式

筆新

雪のよりあしをよみ二月式

玉鉉

まよふのをとを隠すかく二月式

蕉窓

一ふふ一ふふかゝる二月式

橋六

衣更着

や月やあまの三月月式

乙二

や月やあまの三月月式

了是

や月やあまの三月月式

石海

春

如月や昆河川堂の普賢あり 道春

如月や若狭の金伴海 天涯

きこくよの何れも柳の本のあり 越後 蝸堂

如月や隣国一は侍の如也 踏成

如月のちり合ふなる空も 石卵

如月や子もあふれあふる男 陸奥 甚人

又うき一二月の空も色一は 一

初年や中程の海は非至也 一 兵

七海もや甲船つりは色剛 大板

初年や扇極をなせぬくも 一 蕙

そのちや金持のちる札も 女

江島寺

江島寺の帯へともく流の毛 一 具

福をんまはと色不逐くは 葉 静

江島寺もや色よりも富子 出羽 稲舟

あのあふ極極あり江島像 素 忠

懐もや紅ぬめりともあふなり 乙 工

作は数小日のことれなり江島像 石 腫

幸もとも江島寺中一は色あり 石 海

憲法の色日ハあふる色あり 一 具

みちのくも色解ハまや色あり 江戸 杜 英

そと遠くまゆの場もきりん成 一 蕙

田のふもあふる色あり被る成 天 魏

西行忌

彼岸

東門へ長刀まわす彼岸を并

西の舟遊子の屋敷を望む涼沙

高きうらふり二丘

高のうらの一里を望む一具

嘆ぬまはむ八重女

寺河を望む出羽豹左

高木のまま眉を望む古指

婿を望む多々女

世の豹乃人大梅

望む紅惟平

甘酒を望む涼谷

振との言つ揚坐

振月と望む一具

振と望む應々女

月と望む一之

町くの望む真因

志望安房

志望平雄

白の志望波柳

名小志望古陸

夏科江橋

眺月

腫夜

徳少のまや善なる 熊式 子 籍

熊也や吉波を流し 松の香 成美

地ちろねや松田海の由代系 一 具

熊松を山岸をより 熊河の所 甲雙 重行

熊松也 松くくくくく 寺の犬 多と女

妻の月 四の舌と 知るるのく人 全

飯 煮るとときけ を解也 妻河 陸奥 河部中

あもくくと 藝木の 妻は妻の月 馬 瓢

ゆふふふふふふ ぬぬ形也 妻河 湖 南

妻の月 さいひひひひひ 家あり 久 藏

妻の月 云 家あり ぬく 中 詠 帰

一 松くくく 宿 摩くも 妻の月 素 越

松や 杉 松くく 乃 妻の月 了 是

家もくく ぬくくくく 遠き妻の月 半陸 子 宵

妻の月 冬く 海の 遠むを 左 裡

知と 松くく 妻の月 つく 也 大 知

引くく 由 佐を 妻の月 也 妻の月 大 搦

大 布 子 あり くる 妻の月 寥 松

そくくくく 桐の 二重也 妻の月 下毛 原 水

井戸をくく 小く 妻の月 あり 妻の月 蕉 雨

妻の月 葉 井の 本 戸 子 知 一 具

猶もくくく 小く 人 入り ぬ 妻の月 杜 英

春の月飛よりとあくる山の上  
 岩のうらも門田ふをや一春の月  
 若浪をまきあがり春は月  
 まきしきハ若世の雲よまの月  
 春の月芦間のみも浪をとり  
 福徒の程まきんて春は月  
 一宮入の長風をまの月  
 春の月鏡をたの釣瓶繩  
 隔田川ふ西平流あやまの月  
 市中少待もありまの月  
 ほとけあくるむらりれまの月

雨塘  
 石卯  
 下徳 潤里  
 乙二  
 越後 碓嶺  
 北洋  
 桐  
 朱潤  
 麻文  
 以文  
 徳雨

春夜

打を坪ぬぬ赤情くくはまの月  
 子供をうらやとと新く春は月  
 敷川の廣うなりをまの月  
 飛山を如ぬげく空くまの月  
 春の夜や狭の原平をまの月  
 春の夜やふ田へ移る小燈灯  
 春の夜や陰みのうを北東山  
 春の夜や木深き家不度りな  
 春の夜や強きこもまの月  
 春の夜やをねりとあくる燈徒見  
 春の夜や棒きくまの月

了く  
 漢物  
 乙負  
 涼谷  
 乙二  
 然巢  
 漫く  
 李峰  
 得雨  
 綱意  
 成美

春宵  
鳥交

春の夜は枝の影のたもとに  
門遠くしつと夜もや春の宵  
もさうさやねと干し紙の根  
古きよふとこもさきもさうさ

新薬  
桐堂

鳥巢

人の子の巢をの鳴りあまなり

江戸  
安房  
山  
半白

巢立鳥

巢をたたく鳥のゆらゆらと

成美

雉子

猫のまはきし不逆とむ戸は  
まは月をさしひかりきし  
香のりニまありやきし  
身はわをを越え鳴るの  
半程不灰とこいひやきし

江戸  
兩柳女  
碓山  
素礫  
野栗

去きし不さうぬ半はあゆみ

李峰

新風や海を舟をきし

鴛堂

あさる雉子鳴雉子は川向ひ

湖中

きし海や小松をくし海はこ

左節

初鳥やあふるを鳴きし

陸奥  
一毛

お屋とを威第もつしぬ雉子

素世

唐門の石橋をくし雉子の

一具

きし海や船をくし雉子の月

越後  
田都彦

雉子鳴や廣くし雉子の

涼谷

何れ野のしきかよみ塘を

古襲

しき乃知入る野のそよ風

青兎

燕

帰馬

春雁

松毛鳥

駒鳥

鸞

春雁の北風吹く  
 松毛鳥の羽  
 駒鳥の鳴き声  
 鸞の舞  
 春雁の北風吹く  
 松毛鳥の羽  
 駒鳥の鳴き声  
 鸞の舞

三 葛  
 道 考  
 由 之  
 雄 平  
 箕 山  
 破 山  
 輝 山  
 乙 二  
 怨 石  
 茅 丸  
 植 考

上毛

江戸

佐渡

春雁の北風吹く  
 松毛鳥の羽  
 駒鳥の鳴き声  
 鸞の舞  
 春雁の北風吹く  
 松毛鳥の羽  
 駒鳥の鳴き声  
 鸞の舞

後 程  
 一 蕙  
 专 笋  
 龜 丸  
 鷲 盤  
 天 涯  
 為 女  
 野 泉  
 乙 二  
 大 梅  
 菊 子

雲雀

志とてもくぬてありのを  
 りつれとて高年ふ入ぬ房の影  
 人う龜のふふ流小日や下る  
 引とてむるまゝあはれふ鳴る雀  
 只のこをぬきとてあがりねを雀  
 高かりく深松よりと鳴りたり  
 雲雀鳴や一文を曹の小人形  
 鳴わとい重雀の足とぬ流る哉  
 とあまてもおれしとて鳴る雀  
 代官の心とほくせり雲雀哉  
 一具

素志

桂丸

鶯笠

淇水

野巢

素陵

白坐

叢

規外

春鳥

春水雞

春鳥

雀子

左ありる若とも那ーや能を雀  
 跡とてふふ履実り也鳴りたり  
 雲雀鳴ちりくもや振はる  
 又若ふ時ふ新しきしをりり  
 人ふ雀をかくてはあはれを雀哉  
 若那しとてふありら雀乃子  
 まの目を何處のことと母とて雀  
 雀子のつひふくもぬ月ね哉  
 せらあやあめらうううハ流芽系  
 川の邊これとて雀不妻の  
 榎も小かあのををねし妻のを

獲物

谷後

朱閩

越後 帰雪

三平

京葉

下徳 きて女

華彦

乙二

全 梅令

春水雞

春鳥

春



春水歌

春のささる船の性多し  
さう時を越すいともまはる

悟明  
乙二  
静山

親をよぶ舟を流りてまはる

湖平

あふれ親を流す舟を流りてまはる

涼谷

よふをまはる舟の性多し

道彦

流す舟や舟の性多し

魚淵

舟を流す舟の性多し

天涯

舟を流す舟の性多し

露

舟を流す舟の性多し

大橋

蝶

舟を流す舟の性多し

岩後

舟を流す舟の性多し

守光

舟を流す舟の性多し

吟歩

舟を流す舟の性多し

湖中

舟を流す舟の性多し

梅二

舟を流す舟の性多し

白松

舟を流す舟の性多し

素忠

舟を流す舟の性多し

素鏡

舟を流す舟の性多し

抱俊

舟を流す舟の性多し

十兩

舟を流す舟の性多し

馬佛

春

蛙 靴 蜂

蟠くふ一白んせうを小出刀  
 隠くふ蟠の舞也む出也式  
 蟠くとふをてけひより蟠のふ  
 出屋とふ業はあふも蟠ハ股も家  
 蟠の業や梅ハ世よりて其あふり  
 百蟠や蟠あふててし本業搔  
 遠つをて蟠の出て其も本業式  
 つまれくあつまの蟠や白の足  
 靴のふくを世よりて履より蟠の足  
 灯ハ業をて蟠とあふり蟠の足  
 里よりや蟠もあれを蟠の足

宇陸

越後

一

其流

一具

史十

乙二

信濃

如陵

宇陸

和琴

道雄

出州

素凉

春推

凉谷

其流

史十

乙二

如陵

和琴

道雄

持灯てあせをそる蟠の  
 足ハふをての蟠もあふり  
 出屋とふ業はあふも蟠ハ股も家  
 蟠の業や梅ハ世よりて其あふり  
 百蟠や蟠あふててし本業搔  
 遠つをて蟠の出て其も本業式  
 つまれくあつまの蟠や白の足  
 靴のふくを世よりて履より蟠の足  
 灯ハ業をて蟠とあふり蟠の足  
 里よりや蟠もあれを蟠の足

丁知

飛女

菟六

北俱

蘭叟

了々

南月

柳美

湖平

東騏

辰涯

田 蛙子  
田 蝶

大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙

東海  
春坡  
東城  
慈泉  
嵐峰  
葛三  
舞齡  
素怒

飯 蛸  
猫 虫

大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙

東城  
二秀  
雨柳女  
林曹  
存格

大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙  
大をふり内のさきやなる蛙

東城  
二秀  
雨柳女  
林曹  
存格

春





種蒔

ふのまのく二百獅子若ふさ流成

天崖

種蒔の耐く枝の深くある木宮成

茶静

麻蒔

あさきさきれえふさる坊の麻成

古翠

葦蒔

そや深一あさき麻蒔といふ細

一葉

福蒔

うとのまこれ枝を短くもせりるを

也州

葎

月さ知く四ふ本折一葎成

一具

山さやまをむ生ぬく虚るを

越後 踏付

ふ葎成や山ふ女乃也是も是

飛江

土葎

瓦焼日初つさぬつろく一

雨就

押さるはの産ふ物さるち中成

大梅

深ふち葎成さるち久伯母成

移菜  
席杖

移菜子の石にさゆひさ流成

東止

針糸のよふさるち中成

学陸 志珉

つくつくばひや横の行もあも

道彦

らるる日のものともつうさるち中成

陸奥 草彦

強き落る産ふ物さるち中成

菊嶋

松といひ移菜とのあもさ邊成

下徳 也州

いあさり人あもあはさるち中成

夜照

いささりやさるち中成

草彦

あさりあさるち中成

成美

迎ふれは松ああさるち中成

越後 文思

醫者の流うともえんさるち中成

石翠

春草

蒲之英

まきふそのとまきふその英

乙三

薊

あざむらさきもろこし

薊漢

あざむらさきもろこし

一具

苣

あざむらさきもろこし

雄嶺

菜花

あざむらさきもろこし

菜花

あざむらさきもろこし

菜花

あざむらさきもろこし

菜花

あざむらさきもろこし

菜花

あざむらさきもろこし

菜花

あざむらさきもろこし

菜花

あざむらさきもろこし

菜花

あざむらさきもろこし

菜花

あざむらさきもろこし

菜花

あざむらさきもろこし

菜花

あざむらさきもろこし

菜花

あざむらさきもろこし

菜花

あざむらさきもろこし

菜花

あざむらさきもろこし

菜花

山葵

あざむらさきもろこし

山葵

葱姑

あざむらさきもろこし

葱姑

菊根分

あざむらさきもろこし

菊根分









梅若系

折はくくのこを梅はるまゝ

道彦

壬生念佛

業板多く宿心おろり壬生の依

陸奥

如鶴

永日

永りふさされゆりう海師の鹿

半陸

也州

草

永りや強う極まると一峰の松

有佐

草

あうきりや源の松の修をゆり

あま女

草

永りや細くふりし一仕り

南秋

草

永りや細くふりし一仕り

下秘

雨夕

草

雀うりのらふ起るも永り日を

四明

素涼

草

永りや遠く舟の舟

陸奥

能佛

遅日

永りやゆきり込あり松柱

一具

春日

春の日はあけをくくぬ

慈泉

春

春の日はあけをくくぬ

大梅

春

春の日はあけをくくぬ

一具

春

春の日はあけをくくぬ

竹帚

春

春の日はあけをくくぬ

子路

春

春の日はあけをくくぬ

煮雨

春

春の日はあけをくくぬ

之徳

春

春の日はあけをくくぬ

風外

春

春の日はあけをくくぬ

可丸

春

春の日はあけをくくぬ

表休

春夕  
燈塞

人の暮る灯をくらむぬきゆられ

より香

炬ゆきをとりて人あふふありぬ

乙二

炬塞を夕顔花の香を

素撲

炬塞を木燧入るるをわたり

一具

炬塞を竹の葉をわたり

あま女

炬塞をや門田の煙をわたり

乙良

伊智の云ふぬ恨をわたり

一具

旅人の苦い心を通すや茶搦

湖南

旅人の苦い心を通すや茶搦

一具

旅人の苦い心を通すや茶搦

あま女

春  
山櫻

山櫻あまの心をわたり

大梅

山櫻あまの心をわたり

飛石

山櫻あまの心をわたり

八重女

山櫻あまの心をわたり

五老

山櫻あまの心をわたり

椿州

山櫻あまの心をわたり

春節

山櫻あまの心をわたり

宇橋

山櫻あまの心をわたり

薫盛

山櫻あまの心をわたり

唯嶺

山櫻あまの心をわたり

蕉雨

春



夕栴

春を春白と云ふより新と云  
新栴生きてし里此人の白  
波あつて月の影ひそ新栴  
夕新のささるふつ新栴  
是をささるふつ新栴  
新栴やさげ八幡と云ふの意  
陽くや栴さつた新栴  
新栴のささる新栴のちかた  
新栴のささる新栴のちかた  
新栴のささる新栴のちかた  
新栴のささる新栴のちかた

夜栴

陸奥 馬年  
一具 葉北

月若栴

豪山 子輪  
右節 素忍  
唯嶺

散栴

八重栴

春を春白と云ふより新と云  
新栴生きてし里此人の白  
波あつて月の影ひそ新栴  
夕新のささるふつ新栴  
是をささるふつ新栴  
新栴やさげ八幡と云ふの意  
陽くや栴さつた新栴  
新栴のささる新栴のちかた  
新栴のささる新栴のちかた  
新栴のささる新栴のちかた  
新栴のささる新栴のちかた

乙二 五老 菅三 渭虹 凉谷 一具 林曹 耕斎 素忍 里丸 卓堂

遅栴

春

越後 素忍 里丸 卓堂



花盛

是れよのさふふくき上野代  
 咲野の里くさくさ功共  
 眉つくるほくさくさありあめ  
 かくこれ志のしり 志を分  
 山里やむ咲くさくさくさ小網  
 隠くさくさくさくさ何んあきり  
 併くさくさくさくさくさくさ  
 関くさくさくさくさくさくさ  
 恥ぬ人くさくさくさくさくさ  
 ちきり佛もくさくさくさくさ  
 ちくさくさくさくさくさくさ

彦々女 獲物 夏桂 木葉 道彦 大梅 一具 左洲 右節 久臧

花雲

ありは候あふくさくさくさくさ  
 ありは海くさくさくさくさくさ  
 ありはくさくさくさくさくさくさ  
 ありはくさくさくさくさくさくさ  
 ありはくさくさくさくさくさくさ  
 ありはくさくさくさくさくさくさ  
 ありはくさくさくさくさくさくさ  
 ありはくさくさくさくさくさくさ

獲物 越後 弄山 幸旌 右節 凉谷 棠北 棠静 著三

花風

ああきくさくさくさくさくさくさ  
 ああきくさくさくさくさくさくさ  
 ああきくさくさくさくさくさくさ  
 ああきくさくさくさくさくさくさ  
 ああきくさくさくさくさくさくさ  
 ああきくさくさくさくさくさくさ  
 ああきくさくさくさくさくさくさ  
 ああきくさくさくさくさくさくさ

梅令 八重女 杜英



梅川初つとてお逢ふるの春

一 具

咲きゆくもしく傘あふる心もて

雄 測

春のほどをえあうとあ乃麻衣

李 峰

あめの白きくま中此の燈衣

出羽 雄念山女

物嬉ひの羽をとり埋めあの春

成 美

妻を此とみとれたりもあは

青 琴

字良くうまのうまもあはあは

江戸 道 彦

りしあはくむとらあらの春ん衣

文 鼎

少里ふはあを名あああを衣

一 矣

百箇ふゆふあを左の春ん衣

蝸 堂

あはんと人ふとらあはあは衣

一 蕙

さる人あ病あをうとあは衣

一 茶

あはれ衣をぬく火を焚あは衣

梅 令

村ののすまを血あはあは衣

屋 外

酒あふあはあはあはあは衣

武 瓶 淡 島

石燈のおへ衣はあはあは衣

古 翠

襟とあはれ衣あはあはあは衣

素 縹

親連とあはれ衣あはあはあは衣

疎 谷

あはれ衣あはれ衣あはあはあは衣

大 梅

あはれ衣あはれ衣あはあはあは衣

可 貞

あはれ衣あはれ衣あはあはあは衣

左 節 久 臧

夕花

夜花

何ぞきちのあまふむあま

魁石

控打て酒のむ人もおのほ

大松

月名

中くふ月松をまらりしあみ人

五書

あま月にくもるささゆしち新あり

萱松

花守

あまやちりししほをまらり

雨柳女

あまのくもるあまをつねふり

去子

散花

あまやえりし月あまは皆あり

石卯

あまあまあまのうらつくりあま

砦山

あまあまあまのあまのあま

露江

あまあまあまのあまのあま

玉聲

あまあまあまのあまのあま

然葉

幾花  
楓

あまのあまのあまのあま

四明

あまのあまのあまのあま

寒松

あまのあまのあまのあま

乙二

あまのあまのあまのあま

古彦

あまのあまのあまのあま

天涯

あまのあまのあまのあま

一蕙

あまのあまのあまのあま

下毛 梅溪

あまのあまのあまのあま

葛三

あまのあまのあまのあま

あま女

あまのあまのあまのあま

由三

あまのあまのあまのあま

秋後 登山





を細くははすまぬの海を

左節

と細くははすまぬの海を

陸奥 起得

連綿と伝ふるを

梅壽

堂中のとらさるるを

一具

ちかむるを

曹三

梅麻つゆを

兩芳

をこぼるるを

南弓

のりをもつるを

大極

茎中を

星谷

水邊の奴も

然棠

尾をこぼるるを

素忠

梅草

梅麻

梅樓

梅

莖

芽花

草花

青花

青花

莖中を

常陸 華新

水邊の奴も

常陸 范父

尾をこぼるるを

碓嶺

莖中を

陸奥 一蕙

水邊の奴も

陸奥 春嶽

尾をこぼるるを

也 州

小をこぼるるを

越後 乙二

寂蓮のあつるを

越後 文冲

そのまゝを

江戸 雪光

まゝを

雨柳女

まゝを

子 轄

母子草

石ぬきもむしんえぬし母と子

嘉林

しもの木とてふ軒やとてと子

陸奥 楚白

杖方とつれのむしやあ乃を

号笠

あつやを心縁若の墓系

杉亭

そ中此月以出く藤の石

出羽 涼海

藤原や池を自傍の大徳嘉

栗尾

竹の宮此まゆゆのそんやあ乃を

天涯

少年高の第根を心やあ乃を

志邦

権舟の掃除沸り藤の石

信濃 一蕙

あ乃の石は心やあ乃の石

希言

あ乃の石は心やあ乃の石

石卯

これをもくもくはむをあ乃の石

久城

此連ふははは心やあ乃の石

平陸 杜幸

あ乃の石は心やあ乃の石

大梅

あ乃の石は心やあ乃の石

出羽 稻州

あ乃の石は心やあ乃の石

成美

あ乃の石は心やあ乃の石

丁知

あ乃の石は心やあ乃の石

涼谷

あ乃の石は心やあ乃の石

一具

あ乃の石は心やあ乃の石

梅弄

あ乃の石は心やあ乃の石

乙二

あ乃の石は心やあ乃の石

梅令

藤



藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

あ乃の石は心やあ乃の石

藤

鳥入鳥



あ乃の石は心やあ乃の石

鳥入鳥

麦粉



あ乃の石は心やあ乃の石

麦粉

和子



あ乃の石は心やあ乃の石

和子

鳥師



あ乃の石は心やあ乃の石

鳥師

春



あ乃の石は心やあ乃の石

春



まるくかきしり入るる影の羅  
 まるくまぬあつるあゆり  
 まるくまぬあつるあゆり  
 まるくのまぬあつるあゆり  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は

一 大  
 獲物  
 菜那  
 了是  
 左来  
 春兮  
 攀桂  
 輝山  
 素恣  
 一 蕙  
 素 露

春人

まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は  
 まるくあつるあゆりあひまの程は

夏桂  
 懸石  
 礫山  
 岸母  
 甚道  
 糸華  
 翫壽  
 涼谷  
 春節  
 あつるあ

春



春山

春海

春水

春の山ありとて峰々大内堂

関を越のうし路ふきし

新のぬちをまきし

山をうへにゆきし

夕煙のこもる

葉隠ちかき

夕ゆや沙場へつ

釣標のこもる

友並に立ち

日の入ふ

佑満

一具

天涯

乙二

卷川

岡村

あま女

某石

成美

乙人

春の山ありとて峰々大内堂

関を越のうし路ふきし

新のぬちをまきし

山をうへにゆきし

夕煙のこもる

葉隠ちかき

夕ゆや沙場へつ

釣標のこもる

友並に立ち

右節

素志

双湖

一具

素月

竹馬

然草

成美

梅合

下総

蓬呂

右節

春山

春海

春水

春山

春海

春水

春川

夏近

惜春

春別

春過

春暮

春水

瑞竹や春水あはれくまの春

涼谷

水橋を流るる水は

全

梅姫も春水のあはれ

出羽 巴陵

春の川

梅の白柳は

道彦

梅の白柳は

涼谷

梅の白柳は

乙二

梅の白柳は

一具

梅の白柳は

道彦

梅の白柳は

左乙

梅の白柳は

乙二

梅の白柳は

桂丸

初春

春の白柳は

杉島

春の白柳は

道彦

春の白柳は

了

春の白柳は

陸奥 文翠

春の白柳は

可都里

春の白柳は

月敏

春の白柳は

出羽 一具

春の白柳は

志蘭

春の白柳は

馬瓢

春の白柳は

高三 一具

春華

三月長

春雜

春

春風吹綠柳

燕子剪輕盈

桃花紅似火

柳絮白如雪

燕子剪輕盈

桃花紅似火

柳絮白如雪

燕子剪輕盈

桃花紅似火

柳絮白如雪

燕子剪輕盈

桃花紅似火

柳絮白如雪

燕子剪輕盈

桃花紅似火

柳絮白如雪

燕子剪輕盈

桃花紅似火

柳絮白如雪

燕子剪輕盈

桃花紅似火

春

春風吹綠柳

燕子剪輕盈

桃花紅似火

柳絮白如雪

燕子剪輕盈

桃花紅似火

柳絮白如雪

燕子剪輕盈

桃花紅似火

柳絮白如雪

燕子剪輕盈

桃花紅似火

柳絮白如雪

燕子剪輕盈

桃花紅似火

柳絮白如雪

燕子剪輕盈

桃花紅似火

柳絮白如雪

燕子剪輕盈

桃花紅似火

一 蕙  
 一 美  
 一 陸  
 一 文  
 一 麗  
 一 令  
 一 禹  
 一 文  
 一 凉  
 一 谷

俳諧發句吾都麻布理春下終

俳諧發句吾都麻布理夏上

洞海舎涼谷編

一 具庵 一 具披

四月

成 一 大 一 馬 全 多 子  
 一 蕙 一 美 一 陸 一 文 一 麗 一 令 一 禹 一 文 一 凉 一 谷  
 一 具庵 一 具披  
 洞海舎涼谷編

卯月

蕉雨

暑き日と涼きのあはれ

下巳 艸山

夏の戸も移りあはれ

道彦

風の心も移りあはれ

右 節

あんなあんなあはれ

唐文 竹木女

羊白ふ卯月もあはれ

涼夜

初夏の清ありきの海三里

此 孫

あつたあつたあはれ

道彦

あつたあつたあはれ

日 人

あつたあつたあはれ

掌 中

あつたあつたあはれ

掌 中

初夏  
末夏  
更衣

初夏の礼もあはれ

掌 中

あつたあつたあはれ

日 明

あつたあつたあはれ

唐文 夏人

あつたあつたあはれ

唐文 夏人

あつたあつたあはれ

唐文 夏人

あつたあつたあはれ

唐文 夏人

あつたあつたあはれ

唐文 夏人

あつたあつたあはれ

唐文 夏人

あつたあつたあはれ

唐文 夏人

あつたあつたあはれ

唐文 夏人

あつたあつたあはれ

唐文 夏人

夏  
孫  
接

夏





夏念併

青さし

蟹齋

鮎

松魚

夏念併のち交志那子ノ米をうけ  
 まさしや時いとりてハ著せ  
 月ノ富む伏屋よりひよをひひは  
 鹿ちのこま夢の小ほひぬ像ま  
 ありの葉月ハうされて一板能  
 す一讀て那うえらうや秋の山  
 多好も少しそをれうつ成は  
 ともてそや一もて那強一初松魚  
 佛ももるらんちもむ川 經  
 初經濟けハ能子往せんん  
 才つこいんはけりかうつ成

一具

葛三

十味

蕉雨

高下女

宇橋

一蕙

号笠

長お

下能斗圓

蕉雨

麦秋

青

麦秋や持女まうらふあやき  
 窠ちよ改りつや 麦けあつと  
 麦路や赤津ハらうと日より雪  
 祇壇や友のあき風ふけふ 物  
 麦の葉山子とくやうさうんあう  
 麦を那とまきわなや 麦の秋  
 山門のちよ町ありむきのたき  
 麦秋や多くものとの終乃費  
 麦年の聲けくや 麦の秋  
 麦秋や畑てのらうく青  
 次材水まこは葉とや 麦の秋

お節

芭菜

一四

一蕙

登梅

一具

素休

菊古

高下女

獲抄

涼谷



徳麦  
麦刈

青嵐

牡丹

麦刈れる日秋の中や初ぎふ  
 穂も出れハ一ふくくも田舎  
 中をくくま一ちろ好田麦刈  
 一畦の麦刈のさす月夜久  
 麦刈やちち色くられ一  
 江島や月ハサ日の青あらし  
 踏らうす木よりさよりま嵐  
 あれ嵐存りくくくく猫の身  
 一休も毒いなきりく牡丹が  
 咲くそ牡丹さく一き大書  
 花さく一はくく後けめんか

乙人  
 乙二  
 麥松  
 乙良  
 兩塘  
 一具  
 蕉兩  
 千輪  
 道彦  
 梅溪  
 抱磯

芍薬

大田の牡丹をくく後移り水  
 花のそ向く小居多牡丹  
 新さく牡丹のさくきく  
 花人のさくさくひて牡丹  
 櫻集の赤名さくく  
 原内一り時身少牡丹  
 うきくく牡丹一株麦の中  
 あ日のけくくきん牡丹  
 和きく芍薬浮えいあり  
 芍薬や大れなき物  
 志やくくハ一本をよきくの中

茶屋  
 豪山  
 妻宮  
 八重女  
 東義  
 一具  
 素有  
 涼谷  
 梅谷  
 秋免  
 素撲



仿は

花葵

鷲尾花

嬰妻

古池やあはれなる色のうまひを  
 四季に咲と人へつとも花の  
 咲きぬ葵は日よゆく川に  
 山七のちうしきはや葵さく  
 おまひよは候者の女やき尾花  
 産まぬの匂ひのすけりさの  
 へり 捨てまもりぬちの 菜より  
 新し 捨て居集の中とありなり  
 おまひなるまきとてはけりやうの  
 作ちりし 砂取きちちやうの  
 不二なるそつりくしりくのみ

周倫  
 涼若  
 長原  
 乙久  
 也孝  
 道彦  
 也孫  
 一茶  
 曉馬  
 乙二  
 ちま

替豆花  
 茨花

流傳のあはれけり此は  
 ちの田て 親もるなりりの  
 花あはれ 天をりやうの  
 流しうおの丸やとをり  
 けり 咲や材つ事の物佛  
 柳子母のまておけりなり  
 り ちかや 養の口のさけり  
 替豆花はて毎年のをり  
 くらあめののふやま田の  
 田へををまきしてあはれ  
 山伏のまきを流れく

遊  
 只く  
 柳村  
 紫葉  
 兼林  
 高上女  
 つふの  
 八重女  
 一具  
 権九

卯花

庭あやうくあきかきくすい 夜き  
 雨のすくへのりかしてさく 羨のふ  
 夕されハこそぬあまえんそそり  
 夕のあやうくく かなの夜陰うね  
 卯あまきつととと 極ぬ海やが  
 卯のあやうくく かなの夜陰うね  
 卯あまのあやうく かなの夜陰うね  
 卯あまや 豊の 膳りの 人々をり  
 卯のあやうく かなの夜陰うね  
 馬あやうくあきさし ねようくね  
 卯あまき 中る 町やわの かくく

西二 涼谷 素葉 皎々 大橋 万巻 一陽 西孫 乙二 東義 古葉

卯花

卯花

卯葉

甲あまのれ、かなあまのり、あまのり、あまのり  
 乙の 楓あまの あまのり、あまのり、あまのり  
 卯あまのり、あまのり、あまのり、あまのり  
 あまのり、あまのり、あまのり、あまのり  
 甲の子の、あまのり、あまのり、あまのり  
 乙の 楓あまのり、あまのり、あまのり、あまのり  
 卯あまのり、あまのり、あまのり、あまのり  
 卯あまのり、あまのり、あまのり、あまのり  
 卯あまのり、あまのり、あまのり、あまのり  
 卯あまのり、あまのり、あまのり、あまのり

素葉 甲 子介 葛三 鳳車 周末女 素葉 卯 卯 卯 卯 卯 卯 卯 卯 卯 卯



千代

蕙草茂  
木下園

散松葉

川上のほ揚々疾志々々水  
ふる里の八併をむしきり  
宮中を穿てたれも志けり  
蕙守るる後ぬきき散りし水  
志のふるさと茂る中りも茂る  
下宮のあまりの水こころり  
所忍と人をいふなり木下園  
木下宮々々すのりし田畑  
お松葉ふちき水木ゆい  
都々々々き物々々々松葉  
お松葉林のんのすくすく

具  
手遊  
志  
あよ女  
葛三  
久藏  
妙仙  
杉亭  
葛三  
碩布  
あよ女

桐花

抽花

金柑花

枳殼花

花の穂子雨をぬりて桐花  
掃りてす候日きり花や桐花  
人々の満てりてやきりの  
きりてを咲や花をきりや  
花池ふつきー圃やまりの  
陽るの中り小咲り桐の  
抽のそ水やをぬりて下  
花帰してき人なりすの  
きんぐんのふたあのをひり  
下花葉の枳殼花や枳殼  
ろくろくらの花のきりて

九畦  
一湯  
真沙収  
丁知  
木葉  
護揚  
守光  
之徳  
大樹  
唐陰女

夏

柿花

庭松寺のお咲くさり吉の柿

樂橋

茄子巻

しや世と木珍おとくしや子咲

朱美

初茄子

庭苗も咲てんせたり初茄子

朱北

茄子

汁の美より初茄子

李峰

筍

あす切ると鼻てくさる初茄子

全

飛一の多やぬ義の神巫う小風を委

道彦

浪舟や羊の白ひよもすうら

一具

落

竹の子や馬ゆふけの美の直

朱北

郭公

あつての美のう出いてきては美小免

乙二

ほろき身初吉也し木のほさま

兩柳女

かゝるりの美もをうらし時を

改柳

あつ甲や美と志ふなれと杜松

馬佛

今もくく瑞のりもや郭公

啄秋

子秋ゆやゆらうりも

有月

あつ美守とても吹取く美宮石

素石

乳の美子のやつと森入る子記

と女

後佐の美宮くられし郭公

紫蘭

しきとと身よすくしよ蜀黍鳥

菊老

夏

歩和

とくもあつてもとくも人匠もあ  
 けくまきまきくくくくくく  
 胃魂鳥形やつまくくふるも  
 女少と紫式部ノ意をまき  
 とれてあきやあきと松上月  
 吸形をまきくくくくくく  
 柳宇ももの不足も山家く形  
 あきあきやともく大つて子記  
 時を病まあるくくくく  
 けくくまきまきぬくくも人まき  
 杜松啼やあきくくくくく

一茶  
 蕉水  
 朱潤  
 大柳  
 湖山  
 一具  
 衣休

けくくまき形ぬまきくくくく  
 母のくくくくくくくくくく  
 木形りくくくくくくくく  
 百深くくくくくくくく  
 吹流やまきぬく形き胃魂を  
 敷くくくくくくくくくく  
 杜宇くくくくくくくくく  
 松をくくくく人まきやけくく  
 山家くくくくくくくくく  
 小児醫者くくくくくく  
 子旅帯や七里の横海く

一葛  
 多女  
 夏木女  
 妻也  
 路麦  
 美人  
 奇梁  
 夢松  
 了邊  
 藤谷



鷺入音  
老翁

けしき寺楓のまねのほろけし  
きやきぬねねのほろけし  
うしろの老いけしをまねし  
空を帰るきよきよけし  
きよきよね毛せきよ老いけし  
けしきよきよねまねのま  
けしきよきよねまねのま  
けしきよきよねまねのま  
けしきよきよねまねのま

涼谷  
二  
全  
古  
万  
秋  
花  
梅  
宇  
呆  
涓

鳩

鷺  
通鴨

けしき寺のまねのほろけし  
けしきよきよねまねのま  
けしきよきよねまねのま  
けしきよきよねまねのま  
けしきよきよねまねのま  
けしきよきよねまねのま  
けしきよきよねまねのま  
けしきよきよねまねのま  
けしきよきよねまねのま  
けしきよきよねまねのま

八  
桂  
大  
志  
素  
素  
藤  
高



上は浪をよきとや毎々場子  
 出はるるも控ひあるや場牛  
 糸巾もろしと云ふるがごとく  
 ころもり人のくまも本ら形も  
 場牛やサ日あ手り此月の及  
 旗懸るも美とかれす油地  
 蕨菜  
 確炭  
 鴨馬  
 糖啄  
 蕨菜

俳諧数句吾都麻布理夏中  
 同海舎涼谷編  
 一具庵一具校  
 五月廿  
 石山  
 董水  
 雪雄  
 涼谷  
 素架  
 子介  
 五二  
 二

俳諧数句吾都麻布理夏中  
 同海舎涼谷編  
 一具庵一具校  
 五月廿  
 石山  
 董水  
 雪雄  
 涼谷  
 素架  
 子介  
 五二  
 二

葛蒲を刀 百姓のこころをさすや葛蒲を刀 陸奥 子 船

葛蒲賣 あやめ呂せ武門かやうあやめ 一 茶

軒葛蒲 葛代の影をまきあやめを 馬 佛

葛蒲湯 小形痛しなる風あり指あやめ 了 成 美

中地打 核人のをりぬけたり中地打 出羽 不 材

粽 あらくとねねふほくとく粽代 粟 兆

田のそとえぬううほくとく粽代 古 翠

あつとゆめぬううほくとく粽とく 乙 二

破さるやらの乳も形とて粽とく 奉 忠

粽ゆふもまらうとくも奴すこれか 全

了あまの紅まかろとくちまきい 表 下

琴の砂の海山もらふちまきい 左 珉

あまき提く舟とふ室の花かうれ 島 女

児まのあまもふとく千ノ粽この那 練 圃

下と砂のちを葉もちつくのけりい 大 栴

莫た那のけりいまきいや妻後 一 具

助る表とくこまきいを葉あま後 管 三

材箱毛提くももろく 核う那 橋 令

我栴 井のまももへんられり 出羽 五 明

職

薬 日

加茂競馬

竹酔日

蓮  
真菰刈  
蓮浮葉

舟ノ楫て魚喰ふまゝと望みたり  
楫る日ぞ知りぬ菴ハ舟ノ乃鳥  
竹楫くえてまのめや常り秋  
舟楫て小楫の長き人有りたり  
我をとり舟中 孰し舟楫ん  
むすふも常者やまゝもの刈所  
葉つ葉うらやうれ さまもの数  
此の上の言やはち舟の一枚葉  
ちち舟常や西秋の月のおきとまろ  
うきま子魚のらんを守りたり  
月夜ふくまひさまものやまゝ

菴邊  
角女  
宇楫  
紫衣  
葛三  
乙二  
全  
葛三  
林三  
道彦  
菴邊

蓮  
真菰刈  
蓮浮葉

葉の香や見まゝと西の菴邊の夜  
舟中舟子起て米炊あゝ  
朝日のさす後をすくす 葉ま  
両戸ら秋をさすくく 蓮を  
舟の上を清水那もあゝ 蓮花  
舟人をまゝ風情なり蓮葉  
吼犬も志つき秋葉の表明  
廣沼の二分と舟り咲蓮う水  
葉西やあゝと楫舟のむ  
舟の吹のまゝあゝや 葉ま  
まゝ蓮花あゝあゝとまゝ

也孫  
呆犯  
五老  
一具  
桂丸  
あゝ女  
半美  
松藤  
左坊  
千輪  
僕

百合花

我々も秋芝の香を思ふ花  
 至金の花柄も秋の香を思ふ花  
 空しく打定めても秋の香を思ふ花  
 幽の来吹那も秋の香を思ふ花  
 焚き掛り芝木烟の中も秋の香を思ふ花  
 切らぬ秋の香を思ふ花  
 見ゆる日の中も秋の香を思ふ花  
 至合はれも秋の香を思ふ花  
 又中換はるも秋の香を思ふ花  
 空しく向合も秋の香を思ふ花  
 中換はるも秋の香を思ふ花

成美 二了 摩吻 玄子 大柄 桐吉 輝山 午郎 形系 有月 涼燦

芭花

碎

涼花

能くも物に思ふ花  
 甚な城も思ふ花  
 白雲中 経浮國坂の秋の雨  
 赤の形 赤の形  
 赤の形 赤の形  
 風の中 撲無し 撲馬の上  
 高の中 聖寺に 聖寺に  
 若くも思ふ花の思ふ花  
 中換はるも思ふ花

規外 馬佛 方彦 雄開 涼谷 白圭 涼燦 江戸 伝世 六〇

紅藍花

荻菊

月影を空を照して空の空

夏草をむつりききもわたり

那つむきもまきまきす紋所ちひ

るまきくやむりりんむ九段坂

おほきく城をくしてりや夕月表

あちきのみまをまより山の所

紫のちや梅の葉をけい切の葉

何ら西のや紅菊のつらぬ空の酒

空のちややまをまよる梅のち

那てーまよまよやまのちまよち

梅子のりーまよまよわつれい

江戸 杉香

桂裡

碩布

東義

守光

道彦

丁知

乙二

大梅

遠和

葛之

瞿麦

百合

梅子の折てもあつの咲くまよち

那てーまの折すまよ河原の

よのちよ小の梅子の日かすのち

まよあやちてーまのちよのち

ちまよーまよまよち梅のちかすのち

小梅をまよむの梅子咲まよち

余のちよハ名の梅のちよーまよ梅子

とまよ那つの子南ハ馬もん梅のち

せきちくの梅のちよ人をもまよち

まよめくやちよまよちまよち

かちよみのちよまよちまよち

下毛 大梅

梅溪

素珠

星云

一葉

可久里

乙二

道彦

日人

一作

下毛 巴屋

荻梅子

常夏

石川

謝納草

酢漿草





花橋

あてやうふさねき福ふのまふい  
 福ふさやまきのよのからすけ  
 里の子の病いなる之れふのま  
 今致業一に半ふ由理まふら  
 ろらふを水や昔のや袖賣ふま  
 橋やまふ法やアふまをま  
 橋のまふゆふのむ 花の穂  
 ちねふち澄もかふあてふ人  
 大ふ八ふまの仲形り 一本立  
 多酒で清もまふせふ 一本立  
 花のむのまふらふら一本立

葛三 大 廣 年 葛 与 人 葛 三 一 茶 然 吳 秋

基本立

南天花  
 花

樗

親村を寺のゆふに 夏木立  
 一村まふらふ 夏木立  
 あのとと地巻さささやまふ立  
 川 體も此まふふらふやまふ立  
 ともふらふふふふらふてふらふ立  
 若竹のふらふふらふらふらふ立  
 雲園のふらふみふらふらふらふ立  
 竹のふらふらふらふらふらふ立  
 藤原のふらふらふらふらふらふ立  
 藤原のふらふらふらふらふらふ立

乙 二 寺 飾 一 具 古 盤 学 笠 萬 父 斗 南 下 布 近 嶺 一 具 秋 鬼

若竹

竹波敷

瓜花

親村を寺のゆふに 夏木立  
 一村まふらふ 夏木立  
 あのとと地巻さささやまふ立  
 川 體も此まふふらふやまふ立  
 ともふらふふふふらふてふらふ立  
 若竹のふらふふらふらふらふ立  
 雲園のふらふみふらふらふらふ立  
 竹のふらふらふらふらふらふ立  
 藤原のふらふらふらふらふらふ立  
 藤原のふらふらふらふらふらふ立

乙 二 寺 飾 一 具 古 盤 学 笠 萬 父 斗 南 下 布 近 嶺 一 具 秋 鬼



蟬

田草取  
早乙女

子をばれてき高えち高月おひ  
流石の所入らしかあ代田く水  
山里の系こゝろなんをん青田か  
青田こゝろなんをん青田か  
石とと行致行まされ行と二あま  
人ととて子乙女トヤト激来  
おふおふノ足扱くをー植如  
早乙女や無ふから手致子のを  
破登や売をまねるう蟬おす  
はつきけく偽將入り蟬の古書  
せき啼てみふ小行くまきし知ぬ

戴星  
一具  
素人  
高よ女  
道彦  
砂山  
系飛  
一茶  
兩菴  
葛王  
也

蚊

とち中ノ際高あも兼の蟬  
鳴蟬もまかき夜や堂の標  
大日の標るものく甘せみの舞ノ  
魚つれぬ門レや種月標乃と世  
蟬のまふ有垂かた致林く水  
蟬第や城下か米のやうい少佐  
何ゆ州標あま世を蟬の毒ノ  
勢も来か所系りのあれ酒  
せふゆやおふふありくあえ世  
了きりかもりりす蟬の舞  
蚊の声とありくありりきの月

兼原  
高妻  
道彦  
五老  
系飛  
馬佛  
系美  
了是  
法橋  
涼谷  
兩柳女

藝として松よをれり給は人  
多難も松もおほくしてはく松  
松の松きくしんか子佛に那  
松の後小松とあま松連  
松乃舞のよふ松と松松明松  
松よ起てお良松や強勤佛  
松もも松と松と松と松と  
松の声の徳園の松を松れり  
謝つれハ松も松も松も月松  
松も松も松も松も松も松も  
山吹のあれて松も松も松も

○世

相生  
素榮  
一系  
百那  
乙村  
乙二  
千松  
高と女  
素志  
兩塘  
松葉

改柱  
改遺山

菴を松小松しておれハ月来り  
松も松も松も松も松も松も  
松の舞の月も松も松も松も  
松も松も松も松も松も松も  
松よと松も松も松も松も松も  
松ハの只松の松も松も松も  
かまらや松も松も松も松も  
山風千松も松も松も松も  
くやり松も松も松も松も  
緋羽の松も松も松も松も  
松も松も松も松も松も松も

夏

其松  
五老  
知分  
松行  
梨甫  
了く  
大梅  
守光  
松と女  
松葉

改巻抄

巻

そは極小おろくハきんがきうやアア  
下戸松ふあてまをれは改改ま  
無花菓の上を風づく改改ま  
骨言ふわがうらな改改ま  
そまらからおてまふなり改改ま  
ま道まてりいあまうらま  
おひすきてまもとのま好くしなり  
ま火を極の括入声おらま  
まの好ま月のみままま  
まのまのまうまの両のま  
まのまのままま

作木女  
古翠  
北岳  
蕉兩  
兩龜  
蕉水  
道彦  
石海  
其之  
茶美

世矣

世矣

よと便大あま孫ふと方うけ  
ほらま火や雨の雲形は羽黒山  
と形りうらな灯かみま  
まままままままま  
まの灯を鞠うてま  
ままままままま  
まのまのまハけまのま  
まままままま  
ままままま  
ままままま  
ままままま

古翠  
菜地  
蕩老  
漫々  
聖菜  
きと女  
一茶  
大梅  
青夢  
方五

名座

蠅

蒼火や屋根より出たる若の若  
 上り形も亦草も少路の若く水  
 けりも亦くくくくくき擧り南  
 際田より種小も切く若く種  
 片の若若さくして志す  
 蒼火や 風小もさき 後子草角  
 ぬた雨や けり若くさきむ勝手に  
 蒼火や 風小もさき 後子草角  
 馬口 文若の依ひ 蒼火の水  
 雨若や 塩の若く 烟若  
 旭くくくくくくくくくく

紅火 蒼火

陸奥

乙二  
 燭堂  
 巴里  
 芳氣  
 石卵  
 秋鬼  
 葛三  
 涼谷  
 然菜

蝙蝠

水雜菓  
鳥浮菓

しくん形 蠅の命より 八重葎  
 あえ愛小 一田つく 木若の 蠅  
 あつまれハ 交小 暗し 木の 蠅  
 望め 六 蠅の 若く 少路 若  
 蠅 若 若 若 若 若 若 若  
 かを 序り 若 若 若 若 若 若 若  
 蝙蝠 小 障 若 若 若 若 若 若  
 若 若 若 若 若 若 若 若 若  
 蝙蝠 若 若 若 若 若 若 若 若  
 二 若 若 若 若 若 若 若 若  
 若 若 若 若 若 若 若 若

出所

出所

素陳  
 棧  
 乙二  
 乙馬  
 涼谷  
 菜光  
 葛三  
 菊嶋  
 壹苙  
 不枝  
 所風







五月雪

五月雨

持取の事とて遠くや五月雪

茶静

五月雨と何れは荒島の所高を

道彦

何れや何れか倉にしが飯

一子

さかたせ七 西もあも 本歌ち

茶美

ありふやそのがらうく是の妻

欠滅

五月雨のまじ雄 考 尾を考

二

ささねやとりんく 橋をさ

橋列

非極 廿日よりも鉄より雨

千輪

何れや何れか倉にしが飯

八重女

おのれ物や終り香 雨の中を

一茶

おのれ物や終り香 雨の中を

夜照

五月雨

五月雨と何れは荒島の所高を

武日

川の名きくをゆきや五月雨

志悲

破の火と煙も夢の中をささき雨

一司

何れや何れか倉にしが飯

橋砂

子ちあつと 菫 橋をさ五月雨

不蕙

ささねやとりんく 橋をさ

啓山

五月雨のまじ雄 考 尾を考

涼谷

ありふやそのがらうく是の妻

尖梅

五月雨のまじ雄 考 尾を考

英之

おのれ物や終り香 雨の中を

杉亭

梅雨

五月雨

世英

夏

角力もふくし月のまき入梅が形  
平雄

梅雨のまはれぬ海をくらしきひより  
長歌

雞の鳴きくもれも梅雨のまき  
藤和

下急ぎ一掃つてさつぎやと  
一慈

ちりちりや後急流の宿のまき  
宇備

五月晴る言のあひめしき  
太珉

はるこれのまれぬはるはる  
巴面

鈴やもをる門のさはる  
千輪

梅雨の任も梅雨のまき  
布希

梅雨のまきぬるはるはる  
守光

梅雨のまきぬるはるはる  
梅令

半甚き

虎の雨

短瓶

短瓶を雨よりたふれぬ  
貞風

短瓶を雨よりたふれぬ  
葛之

短瓶を雨よりたふれぬ  
あま女

短瓶を雨よりたふれぬ  
恙葉

短瓶を雨よりたふれぬ  
半美

短瓶を雨よりたふれぬ  
吾人

短瓶を雨よりたふれぬ  
道彦

短瓶を雨よりたふれぬ  
久藏

短瓶を雨よりたふれぬ  
集歌

短瓶を雨よりたふれぬ  
一具

山寺や表のまきぬるはるはる



改帳

高まを六病をむつうしる月  
 殆りやう小老のそえたる瀬の形  
 入る手をもとむいふもと序しやの中  
 川に柱や燭をまきつくさのき  
 虫のうめを改帳つきののり  
 改帳のま謝啓致すふすれり  
 膝の杖をそし短し破れ謝  
 一人改帳身えさるるはさまりぬ  
 肌をよく持子の内の改帳を身  
 母の事かこりせり改帳の  
 改帳のけしきとまゝ改帳

漫々  
 素下  
 寒松  
 梅冷  
 知声  
 悲涼  
 西夕  
 乙綱  
 杉外  
 三平  
 秋鬼

紙帳

惟子

虫やくと秋の明てあり紙の燭  
 改帳とあつく浅中川の紙帳を  
 うやふれて沸く志こり膝のそ  
 けの坊のふちて冷つく改帳が  
 燭つゝぬ秋帳をくまろり二三  
 紙風や燭ををきり茶を客  
 紙切を貝におぼえを紙帳  
 紙帳の紙帳をくむ木下か  
 紙帳の小を紙帳切り紙帳のそ  
 紙帳の小を紙帳切り紙帳のそ  
 うあひふまきとせく物ぬ紙帳

老翁  
 極丸  
 五雲  
 護揚  
 秋耳  
 北洋  
 葛三  
 太坊  
 乙二  
 双湖  
 素心















此書は... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

か... 大澤守

打水

清水

晒井

篤水

冷麦

水粉

水飯

夏

冷飯

香需散

百日紅

葉柳

夏柳

土用芽

浸宵花

河骨

蔓菜

夏州

洋花

麻

麻刈

夏

冷飯の味は紅

香需散の味は大薄等

百日紅の味は

葉柳の味は

夏柳の味は

土用芽の味は

浸宵花の味は

河骨の味は

蔓菜の味は

夏州の味は

洋花の味は

麻の味は

麻刈の味は

夏

夏

夏

夏

夏

夏

夏

夏





排 稽 發 句 五 都 殊 市 理 夏 下 終

此 中 年 年 一 百 有  
核 稽 此 國 之 稅 率 甚 重  
地 區 中 以 爲 甚 之 文 亦 甚 大  
其 中 亦 有 時 刻 有 用 四 味  
其 中 亦 有 時 刻 有 用 四 味  
其 中 亦 有 時 刻 有 用 四 味



芳 哉

